



夢に向かって

PTA会長 平内真一郎



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
また、保護者の皆様におかれましても、感慨深い思いで晴れの日を迎えられました事、心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、四月から大学や専門学校に進学される方、就職される方、それぞれが選択した道へ進むこととなります。その中にはすでに叶えた夢がある人もいれば、これからその夢を見つける人もいます。ただ、今の時代、皆さんのまわりには、必ずしも夢を応援してくれる人ばかりとは限りません。時に、思いどおりにならない事もあるかもしれません。

これからは今までと違い、苦労や困難が多くあると思います。そして、叶えたい夢に対して、とてつもなく理不尽なことを言われたり、時にはネガティブな言葉をかけられたり、夢を叶えたいと思う情熱さえも、消えかけてしまうような出来事が起こるかもしれません。

そして、「なぜ自分だけが」「これが自分の運命なのか」と、頑張ることをあきらめかけてしまいうような時には、この言葉を思い出してください。

【運命よ、そこをどけ。オレが通る】

NBAプレイヤー、マイケルジョーダン氏が残した言葉です。これからの人生、周りの人の目を気にする事なく「絶対に夢を叶える」という断固たる決意をもって臨んでほしいと思います。これからの皆さんの人生に、大きな拍手とエールを送りたいと思います。

「頑張れ人生！生き抜け人生！あせらず、くじけず、己が道を行け！」
また、伊藤校長先生はじめ、教職員の皆様、三年間生徒たちを支えて全力でご指導頂きました事、そして立派に成長させて頂き卒業式を迎えることができました。本当にありがとうございます。心から感謝、お礼申し上げます。

最後になりますが、保護者の皆様には三年間子供達の為に、PTA活動にご支援ご協力賜りました事、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、どうか自分の歩幅で一歩ずつ前に進み、これから夢に向かって努力し、素晴らしい未来を切り開いて下さい。
卒業生諸君の健闘を祈る！



悪意の連鎖、善意の連鎖

校長 伊藤 文一

私たちは日々、知らず知らずのうちにも様々な「連鎖」の中で生きています。

その中には、温かなものもあれば、残念ながら悪意の連鎖というべきものもあります。理不尽に叱られた経験、尊厳を軽んじられた記憶、なぜ自分だけがこんな目に遭わなくてはいけないのか、そういった悔しさは「自分が損したままでは終われない」という理由で別の誰かに向けられてしまうことがあります。

かつて、下級生をしもべのように扱うことが伝統とされている学生寮がありました。そこに新入生として入った私の知り合いも、例外なく同じひどい扱いを受けました。私の知り合いは、やがて寮長になったのですが、「自分がつらかったことを、次の代に味わわせる必要はない」と、この悪しき慣習をきっぱりやめさせたといっています。悪意は、受け取った人が必ず次へ渡さなければならぬものではありません。断ち切る事ができるのです。ただ、これには強い意志が必要となります。私の知り合いは、強い人でした。

悪意の連鎖の話でしたが、「善意の連鎖」というべきものもあります。皆さんは「恩送り」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。誰かから受けた親切や恩をその人に返すのではなく、次の誰かへ送っていくというものです。私はこれを学生時代に知りました。下宿した最初の日に、下宿の先輩が近くの定食屋さんに連れて行ってくれたのですが、会計をしようとしたときに「あ、今日は僕のおごり。来年後輩ができたら同じようにしてあげて。僕もそうしてもらってきたから」と言われました。「恩送り」という言葉自体は後から知ったものですが、何かこういうのっていいなと思ったものです。

卒業生の皆さん、この学校で受けた先生や仲間、家族、地域の方々からの数えきれない恩を、これから出会う人たちに広げていってほしい。そして悪意の連鎖に気付いたときには、強い心でそれを断ち切る人になってほしい。そういう人こそが、信頼され、そして幸せに近づける人なのだと考えます。

卒業おめでとうございます。みなさんの前途に幸多かれとお祈り申し上げます。

英智の瞳 光あり

三年次委員長 木村 理

本日、ここに卒業を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、心よりお祝い申し上げます。

皆さんが入学した日のことを、昨日のことのように思い出します。期待と不安が入り混じった表情で入場する姿を見ながら、「無事に卒業してくれば」そんな気持ちだったかなと記憶しています。

高校生活の三年間は、決して平坦な道ではなかったはず。思い通りにいかず、悩み、立ち止まることもあったことでしょう。それでも、自分で考え、先生、仲間を支えられながらここまで歩んできました。その姿は、私たち親にとっても何よりも大きな誇りです。

今日こうして、成長した姿を見ると、もう守るだけの存在ではなく、自分の足で未来へ進んでいく、一人の大人なんだなと実感します。どこかそれが、少し寂しくもありますが、それ以上に頼もしくも感じています。

これから先、思うようにいかず失敗することもあるでしょう。そんな時は、無理に強がらず、誰かに頼っていいと思います。私たち親は、いつでも皆さんの味方です。

最後に、教職員の皆様、そして三年間共に過ごした子供たちのご健康とご多幸をお祈りし、私からの言葉とさせていただきます。

ご卒業おめでとうございます。

のび太のひらめき

二年次委員長 長津 亜紀江

「どうせ無理」のび太はよくそう言っただけのシーンがあります。そんな時でも、ドラえもんは道具を出す前にのび太に考えさせます。

なぜなら、未来を変えるきっかけは、のび太のひらめきの中にあるから。

「あんなこといいな、できたらいいな」と思うと、そこに小さく一瞬のひらめきが生まれる。それはまったく特別な日にやってくるものでもなく、ゲームをしているときや、友達と話しているとき、私なんかは寝ているときに夢でついで瞬間もあるほど、ひらめきついで一瞬。

その時に大切なのは「そんなのくだらない」と消さないこと。

いつも泣いてばかりののび太でも、思いついたことを言葉にしてドラえもんに伝えるから「あんなことできたらいいな」が叶う道具が出てくるわけで、これをまあいつか、くだらないなあきらめてしまつたら道具は出ないし、ドラえもんはただのためきにも猫にもつかない青い雪だるまになってしまつ。

今の時代はネットで検索したら正解はすぐに見つかるけれど、この先大切なのは「ひらめき」を大切に形にしてみることなんじやないかなと私は思います。ひらめきは人間の特技。そのひらめきの価値をあげて、自分のために、家族のために、友達のために、見知らぬだれかのために使えたら、世の中にもっとハッピーがひろがる。自分の中に「ひみつ」の道具は入っているものだから恐れず声に出して、ひらめきを大切に。

おめでとう

一年次委員長 濱田 大臣

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

3年生の皆さん、早いもので本日、3年間過ごした大湊高校を卒業となります。

入学したとき、この日を迎えることは想像できていなかったと思います。

特に、3年生になってからの1年間は、とても早く感じたのではないのでしょうか。

3年生の皆さんは、体育祭や文化祭などの学校行事はもちろん、部活動等の活動においても、常に2年生、1年生の手本となり、引張ってくれていました。

その姿は非常に頼もしく、ただただ感心しておりました。

今の皆さんがあるのは、楽しいことも苦しいことも辛いことも、色々なことを仲間たちと乗り越えてきたからです。これからは、それぞれ夢に向かい、別々の道を歩むこととなりますが、自分を成長させてくれた仲間を一生大切にしてください。

そして、本日まで皆さんの成長を一番近くで見守り応援してくれた家族、支えてくれた先生方への「感謝」の気持ちをお忘れず、これからも頑張ってください。皆さんの今後の活躍を心よりお祈りしております。

夢にときめけ！明日にきらめけ！



編集後記

今年度も多くのPTA活動に御協力いただきありがとうございました。特に高P連むつ大会での進行や運営において、大湊高校PTAの団結力を見せつけることができたと思っております。こうしたPTA活動の一つひとつが、お子様の健全な育成につながっていくのだと感じています。来年度も皆様の協力のもとPTA活動を盛り上げていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

渉外部主任 半田 拓也